

医農融合公衆衛生学環アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的にを行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、医農融合公衆衛生学環のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、学習の到達目標として以下全ての要件を満たす学修成果を求める。

- ① 疫学、保健医療管理学、生物統計学、社会科学・行動科学、環境・食品衛生学の5領域の基本を理解し、グローバルスタンダードな公衆衛生知識及び食を通じた健康増進に関する知識を身につけている。
- ② 地域における様々な分野において、公衆衛生の専門家として指導的役割を果たすことができる。
- ③ 様々な研究成果や系統レビュー、メタアナリシスの研究成果について、その解釈及びエビデンスレベルを適切に理解し、エビデンスに基づき、専門的かつ指導的役割を果たすことができる知識を身につけている。
- ④ 感染症対策や心疾患予防など、公衆衛生上の様々な課題について、その問題点を把握して対策を組み立て、その対策の再評価と改善といった計画・実施・評価・改善の一連のプロセスを実践できる知識・技能を身につけている。
- ⑤ 他分野・多職種と協働するためのコミュニケーション力、調整力を身につけている。

学位論文においては、リサーチ・ルーブリックにおいて研究の位置づけと目的の明確さ、独自性、科学的検討のレベル、プレゼンテーション能力などの評価項目を評価し、一定以上のレベルに到達したものを合格としている。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	研究指導計画書	毎年4月	全学年	研究題目、研究指導計画、教員コメント	電子媒体	学環委員会	修士論文の完成度を高めるとともに、学習支援の改善、学習環境及び研究指導の充実に活用
2	リサーチ・ループリック	毎年2回 (前・後学期)	全学年	テーマ設定、研究活動の妥当性、研究の内容とその記述、研究成果	電子媒体	学環委員会	修士論文の完成度を高めるとともに、学習支援の改善、学習環境及び研究指導の充実に活用
3	在学生授業改善アンケート	毎年1-3月	全学年	学習状況、学習環境、カリキュラムへの意見など	Webアンケート	学環委員会	結果を学環委員会にて検討し、授業方法等の改善や次年度以降のカリキュラム編成に活用
4	休退学調査	毎年1回	全学年	休学者数、退学者数	修学支援システム	教育・学生支援機構／各研究科・学環	各研究科・学環が教育学生支援会議に報告し、各研究科・学環の学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	修了予定者アンケート	毎年1-3月	2年生	在学中の状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況、トランスファブルスキル修得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構／学環委員会	各研究科・学環のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	修了者の進路状況	毎年1回	2年生	修了者の進路（就職率、県内就職率、進学率）、就職支援への評価	修学支援システム	教育・学生支援機構／学環委員会	就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	修了生調査	毎年1回	修了後3年経過の修了生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各研究科・学環のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	就職先等への意見聴取	3年に1回程度	修了生	愛大コンピテンシーの習得状況	アンケート又はヒアリング	学環委員会	カリキュラム改善、学習支援の改善、自己点検・評価に活用